

## トピックス TOPICS

# 小さな子供と触れ合う機会をつくる

生徒が緊張しながら小さな子供を抱っこし、お母さんの話に耳を傾ける―「乳幼児触れ合い体験」の取組が地方公共団体において行われている。

中学生や高校生を対象とした意識調査によると、小さな子供（小学校に入る前の乳幼児）と「触れ合う機会はない」と回答した生徒の割合は、72.7%となっており<sup>1</sup>、高校生に限ると、82.2%と高い水準になっている。触れ合う機会としては、中高生全体で「学校の授業や行事」との回答が10.3%で最も多く、「親戚の子供と遊んだり、世話をしている」の8.9%を上回っている。<sup>2 3</sup>

「乳幼児触れ合い体験」は、少子化や核家族化が進行する中、自分と異なる世代と接する機会が少なくなっている中学生や高校生が小さい子供と触れ合える貴重な機会となっている。

### 【県内全域の高校で実施するための体制を構築】～石川県～

石川県では、高校生を対象として、2013（平成25）年度から乳幼児触れ合い体験「親子交流授業」を実施している。初年度の実施は5校であったが、学校の理解を得ながら実施校数を拡大し、2016（平成28）年度には23校で行われた。取組を進める中で、①

効率的かつ効果的なプログラムの作成、②実施する学校側の体制構築、③参加する乳幼児親子の確保という3つの課題が浮かび上がったため、県は2015（平成27）年度に地域少子化対策強化交付金（現在の「地域少子化対策重点推進交付金」）を活用し、こうした課題の解決に取り組んだ。

上記①、②の課題については、公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団が中心となり、NPO等子育て支援者や家庭科教諭、大学の研究者と協力して検討を行った。その結果を基に授業のプログラムを作成するとともに、県内各地域の子育て支援団体が授業を支援する体制を構築した。特に、②の課題については、実際に授業を担当する家庭科教諭とともに、家庭科の指導観点や教育現場での実情を踏まえた検討を行ったことにより、授業実施について学校から理解を得やすくなったという。

また、上記課題③についても同様に検討を行い、ウェブサイトから参加登録を行うことができるシステム「ファミリーバンク」を構築し、2016（平成28）年度から運用を開始している。この「ファミリーバンク」は、スマートフォンからも参加申込みができるなど、参加する乳幼児親子の利便性に配慮したものとなっている。また、実施する学校側か

- 1 三菱UFJリサーチ&コンサルティング（2014）「子育て支援策等に関する調査2014（中高生の意識調査）」より。なお、同報告書では、2003年に実施された前回調査では、66.1%と報告されている。
- 2 前回調査では、「学校の授業や行事」（9.5%）、「親戚の子どもと遊んだり、世話をしている」（14.4%）と報告されている。
- 3 ほかの選択肢は、「町内会や子ども会の活動」（6.3%）、「近所の子どもと遊んだり、世話をしている」（5.1%）、「子どもを含めたサークルやボランティア活動」（3.4%）と報告されている。

らも、参加者への連絡等が簡単にできるようになり、事務的な負担が大きく軽減している。加えて、地域の子育て支援団体による呼びかけや口コミを通じた啓発活動も行っており、2016年度末時点で約300組の親子が「ファミリーバンク」に登録している。



親子交流授業



「ファミリーバンク」ホームページイメージ図

### 【生徒と親子をつなぐファシリテーターを育成】～東京都品川区～

東京都品川区では、2008（平成20）年度から区内の小学校・中学校・高等学校において乳幼児触れ合い体験「赤ちゃんとのふれあい事業」を実施しており、2016（平成28）年度には14校で行われた。実施主体は、各地域の児童センター（区が地域ごとに設置する子育て支援施設）であり、地域の学校への本事業の周知及び協力依頼、授業時間の調整、当日の運営を担っている。また、参加す

る乳幼児親子の確保も行っており、日頃、児童センターを利用している親子に声をかけるなどして募集している。さらに、本事業の実施に合わせ、児童・生徒と乳幼児親子の交流が進むように、パイプ役となるファシリテーターを学校に派遣している。ファシリテーターは、どのように接したらよいか戸惑う児童・生徒に声をかけるなど、児童・生徒と乳幼児親子との交流をサポートしている。こうしたパイプ役がいることで、乳幼児親子も安心して参加することができている。

ファシリテーターを確保するため、区では広く地域の子育て経験者等から募集を行い、外部講師による養成講座や現場での実習を通じて、必要な知識とスキルを習得してもらう機会を設けている。こうしたファシリテーター養成の取組は2011（平成23）年度から行われており、2016（平成28）年度末時点のファシリテーター登録数は約70人にのぼる。



赤ちゃんとのふれあい事業



ファシリテーター養成講座

### 【子育て支援NPOと協力】～愛媛県砥部町～

愛媛県砥部町では、地域少子化対策強化交付金（現在の「地域少子化対策重点推進交付金」）を活用し、2015（平成27）年度から、町内に1校ずつある中学校・高等学校・大学において、乳幼児触れ合い体験「赤ちゃんふれあい体験事業」を実施している。実施主体は、町が企画提案型公募により選定した、砥部町で活動するNPO法人「とべ子育て支援団体ぽっかぽか」（以下「ぽっかぽか」という。）である。

「ぽっかぽか」は、町の主管課や児童館、保健師と協力して事業内容を企画し、学校とも調整を重ね、授業を運営している。参加する乳幼児親子の確保に当たっては、「ぽっかぽか」と地域の母親達とのネットワークを活用するとともに、SNSでの情報発信や口コミを通じた啓発活動を行い、参加を呼びかけている。また、協力する母親達からのアイデアを活かし、生徒と乳幼児親子との交流がうまく進まない場合に備えて、話題提供のためのコミュニケーションカード<sup>1</sup>を用意するなど、きめ細かい工夫も行っている。

このように地域を巻き込んだ取組を通じて、地域の親子向けイベントにボランティアとして参加する生徒が増えるなど、若者が地域の子育て支援にも関心を持つ機運が高まっている。



コミュニケーションカードを使って交流



グループに分かれて交流

\* \* \* \* \*

乳幼児触れ合い体験は、次世代育成支援対策推進法（平成15年法律第120号）に基づく行動計画策定指針や、中学校・高等学校の学習指導要領にも記載されている。しかし、実施する側の負担の大きさや参加する乳幼児親子の確保の難しさなどから、全ての地域で行われているわけではないのが現状である。

紹介した事例から、乳幼児触れ合い体験を広め、継続していくためには、地方公共団体の関係部局同士が連携することはもとより、地域の子育て支援団体とも連携・協力し、地域を巻き込んだ実行体制をつくることが改めて重要であるといえる。

1 話題となる項目が記載してあるカード。カードに書いてあることを質問したり答えたりすることで、互いに話しやすいように工夫している。

### 【乳幼児触れ合い体験の持つ意味】 ～自分の将来を考えるきっかけに～

赤ちゃんや小さい子供と触れ合う機会が多かった人は、そうでない人に比べて結婚意欲が高く、希望する子供の数が多い<sup>1</sup>。

また、小学校の時までに近所の小さい子供と遊ぶなどの地域活動の経験が多かった人は、そうでない人に比べて結婚や子育ての願望が強いという調査結果<sup>2</sup>もあり、この調査を行った国立青少年教育振興機構青少年教育センター長の明石要一氏は「少子化対策のためには、子供の頃から友だちと遊ばせ、家族行事や地域活動<sup>3</sup>に参加させるなど、人間的な触れ合いを体験できる環境づくりも重要である」と提言している<sup>4</sup>。

乳幼児触れ合い体験に参加した高校生からは、

「子供はすごく欲しいけど、不安も増した。命の大切さを改めて考えさせられた。何か勇気もらった気がする。」

「自分が親になるなんて想像できないけど、今日あの場にいたママのように立派な親になりたいと思った。」

などの感想があったという。

生徒が、乳幼児と触れ合うだけでなくその親とも交流し、子育てや家庭等の話を聞くことが、自分の将来について考えるきっかけとなっていることがうかがえる。少子化や核家族化が進行する中、自分と異なる世代と接する機会が少なくなっている中学生や高校生等が小さい子供と触れ合う「乳幼児触れ合い体験」は、子供を産み育てることの意義を考え、親や家族、地域の果たす役割を理解する貴重な機会となっている。

1 国立社会保障・人口問題研究所（2016）「第15回出生動向基本調査」より。

参照URL [http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15\\_gaiyo.asp](http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp)

2 国立青少年教育振興機構「若者の結婚観・子育て観等に関する調査」（2017年）より。

参照URL [http://www.niye.go.jp/kenkyu\\_houkoku/contents/detail/i/111/](http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/111/)

3 ここでいう「地域活動」とは「近所の小さい子供と遊んであげたこと」、「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと」、「地域清掃に参加したこと」の3つを指す。

4 「若者の結婚観・子育て観等に関する調査報告書」（2017）より。